

あかつき俳句会の歴史

元利用者家族 俳句指導者 折竹 青峰

俳句会の歴史とは、少し大げさな表題だが、発足して既に十三年を経過し、俳句会の門を潜った人は、六十人を越え、俳句はできないけれど、講座を楽しみに出席している人は、延べ八十人以上に達する。

既に鬼籍に入られた人でも記録にのこされた作品は、いつまでも残り、その作品を通じて生前の人柄が如実に偲ばれる。この間に発行した同人句集は、四編、個人句集は、七冊。

俳句会の発足は、平成九年四月、当時私の母は、あかつき老人ホームでお世話になっていた。面会でホームを訪れるたびに、手厚い介護を目のあたりにして心中感謝の念でいっぱいだった。

職員以外にも、各種団体や個人のボランティアの人々が作業しておられるのを見たり聞いたりして、私にも何か出来ることはないかと考えた。会社はすでに定年となり、以前から趣味として楽しんでいた俳句を、このホームの入居者やデイサービスに通って来られる人を対象に講座を開いたらどうかと思いついた。

職員に方に相談するとすぐに快諾があり受講者を集めて頂いた。こうして何とか俳句講座が開設されたが、始めは世間話半分に俳句の基本をその中に織り交ぜて、午前十時半から約一時間お話をし、後でその内容を思い出

して頂くためのプリントを配った。

会員には、小学国語学習帳とボールペンを渡して、俳句が、出来れば、これに記入して提出して貰い、私が添削の赤ペンを入れて返却する。このように①講座②プリント配布③俳句帳の添削指導の三本立て指導が軌道に乗った。

同人句集「あかつき1」は、平成十四年四月に発行された。ここには、左記が紙面を飾り会員に配布された。

直原 美代野

雨やみてわらび萌えたつひとと ほか十九句

晴山 とめ

罪深き吾にやさしき花野かな ほか三句

寺島 ハル子

七夕の願いは一つ安らかに ほか十六句

翌十一年十月には、「あかつき2」が発行された。

清瀬 禮子 秋天に鳶の鳴く声ほそぼそと

寺島 ハル子 咲き終えてより藤棚の茂り哉

原 翠峰 鳴き終えて地面を歩む秋の蝉

直原 美代野 雛鳥が親を呼び鳴く一向に

土井 貞子 生も死も天にまかせぬ花明り

与那嶺 カツ 望郷の思い募りて春の闇

有本 君子 咲き誇る撫子に孫思いけり

小林 吉彦 甲子園汗と涙のいさぎよし

佐藤 清 満開の桜に逢いぬ園真昼

高山 与志巳 祭囃し老若男女ときめける

数浜 美智代 小荷物で母から届く秋野菜

村谷 つね 涼しさや鯉に餌やる車椅子

と内容も充実、このころになると俳句会員の作品は、あかつき祭りや箕面市民展などにも出品されて多くの人の目に触れ、評価されるようになった。

句集「あかつき3」には、句集1・2に登場した方のほかに新たに

小池 ひな子 無駄話してはおれぬと盆の僧

山口 満雄 神の愛に生かされ迎う年新た

谷川 マサ子 山里の朝散る椿咲く椿

などが参加し合計百四十句が掲載されている。

市立第二中学の文化祭にもあかつき俳句会の作品が出品展示されたところ、校長先生は「ホームに入居されているお年寄りが一生懸命に勉強され、こんな立派な俳句を作られた、中学生の諸君はこれをお手本に勉強に励みなさい」と訓示されたと後日伝えられた。

平成十五年十月、私の母は百一歳の天寿を全うして昇天した。ホームの職員の方々も参列され、多くの人に見送られて彼岸に旅立った。

録音の母の読経を聞く寒夜 折竹 青峰

母は生前四国八十八箇所巡礼を三度しただけあって般若心境をよどみなく唱えた。

平成十七年七月「句集4」を発行、新しく参加されたのは、

中谷 芳美 鶯の初音ホームの朝まだき

西川 ゆき江 子も孫も帰り米研ぐ夏休み

西畑 定一 独居われ気楽に啜る晦日蕎麦

俳句は、百六十句収録、作者の顔写真と短いコメントが添えてある。

同人句集とは別に

平成十五年八月には小林吉彦の個人句集「みのり」

味いかが新茶売り子の赤だすき／ほか六十句収録

同月、小池ひな子の「照紅葉」

雨蛙鳴いて田仕事急がしをり／ほか六十句収録

同月、有本君子の「土の音」

土の恩おもう冬菜のやわらかき／ほか五十句収録

同月九月、山口満雄の「みち」

初雪の清浄をふみミサに行く／ほか五十句収録

同年十月、村谷つね「かたつむり」を刊行

大橋のかなた霞める淡路島／ほか五十句収録

翌十一月には、竹内慶子「ななかまど」

逆光に全山燃ゆるナナカマド／ほか五十句収録

同月数浜美智代の「Kansya」が刊行された

一雨のあとに湧き出づ虫時雨／ほか五十句収録

同人句集も個人句集も総て私の手作り。著者の序文、俳句、後書き、著者略歴、奥付けなど総てワープロで印字し、A4用紙八つ折に畳む。縦十一センチ横八センチのミニサイズで表紙は美しい模様紙で覆う。手間は掛るが紙代とコピーのみの廉価がとりえ。手軽なポケットサ

イズが却って便利と好評だった。

俳句会は発足以来、今日まで物故される人、新たに参加される人と新陳代謝をしプリントの発行も百五十五号に達した。